

コロンビア月例報告（9月分）

外交・内政状況

2016年10月

在コロンビア日本国大使館

E-mail : info@ba.mofa.go.jp

I 概要

【内政】

- 7日 オルドニェス行政監察庁長官の罷免
- 10日 FARCによる少年・少女兵の一部開放
- 14日 ラミレス保守党党首の辞任
- 17～24日 第10回FARC全国会議
- 26日 和平最終合意署名式典

【外交】

- 1～3日 山口公明党代表の当国訪問
- 8日 オルギン外相のラテンアメリカ開発銀行（CAF）年次総会参加（於：米国）
- 9日 ドゥケ新駐日大使の信任状捧呈（於：日本）
- 9日 サントス大統領のエクアドル訪問
- 13日 国連安全保障理事会によるコロンビア政治ミッション派遣詳細に係る決議
- 18～22日 サントス大統領及びオルギン外相の国連総会出席（於：ニューヨーク）
- 23日 オルギン外相の米国・中米3カ国首脳会談参加（於：ワシントン）
- 26日 FARCとの和平最終合意署名式典（於：当国カルタヘナ）
- 26日 EUによるFARCのEUテロ団体リストからの暫定的除外

II 本文

【内政】

1 オルドニェス行政監察庁長官の罷免

7日、国家審議会は、オルドニェス行政監察庁長官の2012年時の再選を無効とする判決を下した。なお、同行政監察庁長官の任期は残り4カ月のみであった。再選の無効理由は、再選を支持した判事のうち3名の親族が、同行政監察庁長官が再選後に、任命または留任させた同庁内の高位ポストの者であり、そのような利害関係者による再選支持が憲法違反であるからとされた。

同長官は、FARCとの和平合意内容に反対していたため、本件無効判決は、FARCの政治的圧力によるものであるとして批判した。

2 FARCによる少年・少女兵の一部開放

10日、FARCは和平交渉における部分合意に基づき、少年・少女兵の一部（170名程度）開放を開始した。同措置はアンティオキア県及びメタ県で実施された。

3 ラミレス保守党党首の辞任

14日、マルタ・ルシア・ラミレス保守党党首が党首を辞任した。ラミレス党首は、和平合意に関する国民投票に反対票を投じる意向を示していたが、保守党は党として賛成票を支持する決定をしていた。

4 第10回FARC全国会議

17～23日、カケタ県のサンビセンテ・デル・カグアン付近の平原地帯「ジャリ」で第10回FARC全国会議が開催された。同会議において、全会一致で8月24日の和平最終合意を承認した。会議には約2千人が出席し、そのうち31人がFARCの参謀本部の幹部、200人が（決定権を持つと推察される）各戦線の代表、24人が服役中で特別に一時外出を許可されたFARC兵、50人が招待客、900人がジャーナリストであったとされる。

5 和平最終合意署名式典

26日、当国カルタヘナにおいてFARCとの和平最終合意署名式典が開催された。合計約2,500名が招待され、国連事務総長、各国元首、外相に加えて、各県知事・市長、各種組合・団体長、国会議員、約1,200名の記者等も招待された。

ロンドーニョFARC最高司令官は演説において、武器を伴わない政治を行う旨、政府も諸合意を遵守することを期待する旨、紛争中の犠牲者に許しを乞いたい旨等述べた。

サントス大統領は、犠牲者に哀悼の意を表すとともに、政治活動を実施する道を選択したFARC兵を歓迎する旨、いかなる和平合意も不完全なものであり、我々が合意した内容が最善のものである旨等述べた。

【外交】

1 山口公明党代表の当国訪問

1～3日、山口公明党代表を団長とする公明党中南米訪問団一行が当国を訪問した。山口代表一行は、1日、カルデナス財務・公債大臣と会談したほか、2日、サントス大統領を表敬訪問した後、トレマイダ基地地雷除去国際センターの視察等を行った。

山口代表はサントス大統領に対し、安倍総理の親書を手交しつつ、FARCとの和平最終合意に対する祝意を表し、日本による地雷除去分野での更なる協力の意向を伝えた。

2 オルギン外相のラテンアメリカ開発銀行（CAF）年次総会参加（於：米国）

8日、オルギン外相は、米国で開催されたラテンアメリカ開発銀行（CAF）年次総会中の「コロンビアにおける和平の挑戦」と題された討論会に参加し、FARCとの和平合意につき説明した。

3 ドウケ新駐日大使の信任状捧呈

9日、ガブリエル・ドウケ新駐日大使が天皇陛下に対して信任状を捧呈した。

4 サントス大統領のエクアドル訪問

9日、サントス大統領はエクアドルのガラパゴス諸島を訪問し、エクアドルとコスタリカ間の海洋境界に関する合意の式典に出席した。エクアドルとコスタリカは36年間の交渉の末、太平洋における海洋境界を画定した。

5 国連安全保障理事会による政治ミッション派遣詳細に係る決議

13日、国連安全保障理事会は、コロンビアに派遣される国連政治ミッションの実施の詳細に関する決議案を全会一致で採択した。

6 サントス大統領の国連総会出席

18～22日、サントス大統領は国連総会に出席するためニューヨークを訪問し、以下の日程をこなした。

（1）コロンビアのためのグローバル地雷除去イニシアティブ閣僚級会合

18日、コロンビアのためのグローバル地雷除去イニシアティブ閣僚級会合が開催され、サントス大統領及びオルギン外相が出席した。同イニシアティブへの支援は、25カ国から合計約8,000万ドルに上る。

（2）安倍総理との会談

19日、サントス大統領は安倍総理と首脳会談を行い、安倍総理から和平交渉最終合意に対する祝福と敬意を表した。サントス大統領からは、地雷除去機材の供与を含む日本の支援に謝意を表した。両首脳は、二国間経済関係の更なる深化に期待を表明するとともに、日・コロンビアEPA交渉が最終段階にある点で一致した。

（3）一般討論演説

21日、サントス大統領は国連総会で一般討論演説を実施した。演説は、FARCとの和平交渉が合意に至ったこと、9月26日にコロンビアのカルタヘナにおいて和平合意文書の署名式を行うこと、10月2日には和平合意に関する国民投票を実施すること、FARCが政治活動を行うことも可能となること、コロンビアへの連帯と紛争後の支援を表明しているすべての国に対して感謝の意を表すること等の内容であった。

(4) その他首脳会談

国連滞在中，サントス大統領は以下の首脳会談等を実施した。

19日：国連事務総長，スペイン国王

20日：パナマ大統領，フランス大統領，ニュージーランド首相

21日：オバマ米国大統領，グアテマラ大統領

7 オルギン外相の国連総会出席

18～22日，オルギン外相は国連総会に出席するためニューヨークを訪問した。コロンビアのためのグローバル地雷除去イニシアティブ閣僚級会合にサントス大統領とともに出席したほか，一部首脳会談に同席した。

オルギン外相は，21日，イベロアメリカ外相会合に出席し，10月28～29日にコロンビアのカルタヘナで開催されるイベロアメリカ・サミットの準備の進捗状況につき協議したほか，22日，CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）外相会合に出席した。

また，以下の国との外相会談を実施した。

19日：ハンガリー，ドミニカ（共），ネパール，ガーナ

20日：アイルランド，ミャンマー，セネガル

21日：カタール，ロシア，アルジェリア，アラブ首長国連邦

22日：レバノン，ブータン

8 オルギン外相の米国・中米3カ国首脳会談参加

23日，オルギン外相は，米国のワシントンを訪問し，バイデン米国副大統領と中米3カ国（エルサルバドル，グアテマラ，ホンジュラス）首脳との会談に参加した。チリ及びメキシコの外相も参加した。

9 FARCとの和平最終合意署名式典

26日，当国カルタヘナにおいてFARCとの和平最終合意署名式典が開催され，キューバ，チリ，ベネズエラ，エクアドル，エルサルバドル，パラグアイ，メキシコ，グアテマラ，コスタリカ，ペルー，アルゼンチン，パナマ，ドミニカ（共）の13カ国の首脳及び国連事務総長のほか，18カ国の外相も出席した。

10 EUによるFARCのEUテロ団体リストからの暫定的除外

26日，EU理事会は，コロンビア政府とFARC（コロンビア革命軍）との和平最終合意署名時よりFARCをEUのテロ団体リストから除外することを決定した旨発表した。6か月後にEUは，本件検証を行い，改めて本件に関する措置を決定することとなっている。EUは，2002年にテロ団体リストにFARCを記載した。